



Title	シンポジウム「伝統と革新 伝統文化の継承と伝統産業の将来」
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 2017, 69, p. 84-85
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/65032
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

シンポジウム

「伝統と革新 伝統文化の継承と伝統産業の将来」

司 会：佐藤敬二／京都精華大学

パネリスト：金谷 勉／セメントプロデュースデザイン代表取締役，京都精華大学

多田羅景太／京都工芸繊維大学

塚田 章／京都市立芸術大学

比嘉明子／京都市産業技術研究所

シンポジウム趣旨

伝統産業についてはその作品や製品には完成までに、自然素材とそれらの特性を生かした加工をする多くの工程があり、多彩な道具が必要となり多くの人手を経る。

品質の良い素材，優れた道具，優秀な技を持った職人，その三者が相まって初めて作り手の心や気遣い，ライフスタイルを超越する愛情が感じられ，技術的に素晴らしい次世代に残したいと思う工芸が生まれる。そこで伝統産業の従事者が考えなければならないのは「作り手」と「使い手」の関係の重要性である。経営者や職人，工芸作家，生活文化の担い手，経営学の専門家が一緒に考え，現代のライフスタイルと伝統意匠を考える必要がある。

伝統工芸産業の課題として，1. 良質な自然素材の入手が困難・枯渇，2. 加工する品質の良い道具の減少や枯渇，優秀な後継者の育成が難しい，3. 人材の枯渇（素材研究，技能と経営研究，現場密着のデザイン研究，三位一体の訓練），4. 流通や消費の問題として伝統的工芸品を活かせる生活空間が少ない，職人技を振るうべき場が無い，など多くの課題がある。

ものづくりの心，すなわち使う人への気遣いや次の工程をになう職人への気遣い，使う道具への気遣い，そしてものづくりの手の感覚，身体感覚，生きている自然素材の大切さ，世代間を超えた人と人の繋がりなどが必要となる。先人の知恵と自然の英知に謙虚に学ぶこと，優秀な技を途絶えさせないこと，デザイン・図案は頭と同時に手で考えること，現代の用途に合った最高のものづくり，貴重な自然材料を良い形で，自己満足でなく使う人に届くよう努力することなどそれぞれの工房・企業にとっての「手技に対する思い」が重要である。和風の暮らし，伝統の技について理解し，その現代における意義を考え次の世代に何を引き継ぐのか？ 今後の生活文化のあり方や伝統工芸，伝統産業の可能性，方向性をこのシンポジウムを通して見出して行きたい。
(京都精華大学 佐藤敬二)